

やなかわ

YANAGAWA 2013. 5月15日 No.196

今号の内容

- ◆ 4つの商品を柳川ブランドに ほか 2~3
 - ◆ 日本脳炎の予防接種を勧めています 4
 - ◆ 光回線未整備地区などに通信設備を整備中 5
 - ◆ ボランティア活動はやすらぎ保険で安心 ほか 6
 - ◆ 市民の目線で市の事業をチェック ほか 7
- ◆ 市民のひろば (8-9) ◆ 俳句 (9) ◆ 情報わいど (10-13) ◆ がんばったねぬくもり (14) ◆ もちふみデビュー (15) ◆ 人権・同和教育シリーズ (16)



真っ赤なあまおう こんなに採れたよ

4月28日、農産物の収穫体験を定期的
に開いている「よかばんも～おいでん
会」によるイチゴ（あまおう）の収穫
体験が、明野の田中満義さんのイチゴ
ハウスで行われました。市内や福岡市
から参加した親子連れなど60人は、大
きく真っ赤に色付いたイチゴを、次々
と歓声を上げながら収穫していました。

人権作文

市内の小中学生が書いた人権作文を紹介します。

みんなちがって みんないい



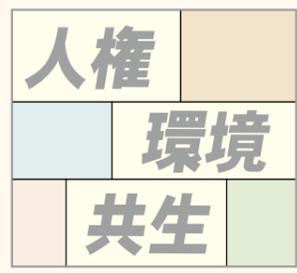
柳河小学校3年 さいしよ 最所 祐一 くん

きょうの道々への学びゆうは、「カボチャとメロン」という話でした。店先に、カボチャとメロンがならんでいます。メロンは、りっぱなほこに入って、ピーンルのおうちで生まれ、ねだんが
高いと言って、いばつていまし
た。そして、カボチャにむかっ
はだかんぼうで、体がでこぼ
こで、ねだんが安いと、わる口を
言っていました。でも、最後に

は、メロンではなくて、カボチャ
が先に売れた、という話です。
ぼくは、この話で学んだことが
二つあります。
一つ目は、せいにかくやそだち
方、できることなど、みんなそ
れぞれちがうということですが、
ぼくのまわりのともだちを見回
しても、同じ人は一人もいませ
ん。ふたりのともだちを見ても、
顔はにているけど、せいにかくや
できることなど、ぜんぜんちが
います。ぼくは、1年生の時に、
「ゆうくんはサッカーが下手だ
から、自分のチームには入れて
やらん。」と言われたことがあ
ります。ぼくは、とてもかなし
くてくやしかったです。それが
ら、ぼくは、サッカーのれんしゅ
うをけんめいにかんぱりました。
今では、そんなことを言うとも
だちはいませんが、そういわれ

たことはわすれません。
二つ目は、みんなちがってい
るけど、みんないいところがあ
るということです。メロンは一
方きな見方で、カボチャにい
じわるなことを言いましたが、
カボチャは自分のことをうけと
めて、きちんと答えていました。
ぼくは、はじめ、カボチャのこ
とをかわいそつだと思いましたが、
でも、金子みすずさんの「わた
しと小鳥とすずこ」の詩を思い
出して、カボチャはカボチャ。
メロンとはちがうけど、カボチャ
もメロンもいいんだ。どっちも
すばらしいんだ、ということ
カボチャから教えられました。
人には、それぞれできること
とできないことがあります。い
いところもあるし、わるいこ
ろもあります。でも、自分やと
もだちのいいところをつたえ

合ったり、はげまし合ったりし
よう、ともだちをきずつけるよ
うなことは言わないようにしよ
う、と心にちかいました。



【評】 子どもたちは、「カボチャ
とメロン」の学習を通して、カ
ボチャ、メロンのそれぞれの価
値に目を向け、その良さに気付
くことができました。また、自
分自身の良さを見つめることが
できました。

この作品は、最所祐一くんが
2年生の時に書いたものです。